

株主 通信

第30期 第2
— 2012 四半期 —

Business Report
2012.1.1-2012.6.30

特集

「糖尿病」の克服に向けた基礎研究

JASDAQ 証券コード：3386

Inspiration for Life Science



人と科学のステキな未来へ

コスモ・バイオ株式会社

世界のライフサイエンス研究を支援する専門商社

独自の探索力による圧倒的な品揃えに、
情報力とサービス力を加えることで、
よりお客様満足度の高い研究支援を目指しています。

コスモ・バイオは、充実した国際ネットワークと
独自の探索力で、世界600社から280万品を超える
品揃えを実現しています。

これに加えて、研究者をはじめとしたお客様が求める
極めて専門的で高度なニーズに対応するために、
適時的確な情報・サービスの提供に努めています。
こうした複合的な研究支援活動によって、
わたしたちコスモ・バイオは、お客様から高い満足と
信頼をいただいております。

お客様（研究者）

より満足度の高い研究支援

コスモ・バイオ

情報力

+

サービス力

圧倒的な品揃え

280万品

独自の探索力

充実した国際ネットワークを構築

世界600社に及ぶ研究用試薬&機器メーカー

トップインタビュー

当期(2012年12月期)の連結業績について

Q1. 当第2四半期累計期間の連結業績はいかがでしたか？

当第2四半期累計期間の連結業績は、残念ながら減収減益となりました。

売上高は、前年同期比0.1%減と、前年実績を僅かに下回る結果となっております。これは、政府補正予算(2012年1月～3月執行)が震災復興関連に集中し研究開発関係への配分が例年より少なかったこと、大学・公的研究機関などの主要なお客様の予算執行の動きが遅く上半期は低調に推移したこと、等によります。ただ、文部科学省の科研費(科学研究費補助金)の予算額は毎年伸びており、2012年度(2012年4月～2013年3月)の予算額も前年度比で約5%増加しております。また、お客様の予算執行の動きは、年間予算の消化に向けて下半期には、上半期の遅れを補う形で活発化してくることが予想されます。

営業利益は、当初予想を上回ったものの、前年同期比11.7%の減益となりました。当初予想を上回った要因は、為替が当初想定レート83円/ドルに対して平均79円/ドルと円高基調で推移したため、原価が下がり売上総利益が増加したことによります。主な減益要因は経営施策によるものです。すなわち、当期は今後の中長

■ 連結業績の推移

(単位:百万円)

	前第2四半期実績 (累計)	当第2四半期(累計)		前年 同期比 増減	当初 予想比 増減
		当初予想 (2月13日公表)	実績		
売上高	3,696	3,830	3,693	-0.1%	-3.6%
営業利益	588	455	519	-11.7%	+14.1%
経常利益	570	477	514	-9.8%	+7.8%
四半期純利益	316	275	273	-13.5%	-0.4%

代表取締役社長
笠松 敏明



期的な成長の持続に向けて積極的な販売促進活動を行うべきであると判断し、コスト節減努力と販売促進投資の積極化を同時に取り組んでおります。下半期も、この方針に変更はございません。

Q2. 通期の連結業績見通しはいかがですか？

通期の連結業績見通しは、下表の通り、増収減益を予想しております。今後の為替変動など何らかの環境変化によっては予想の修正発表を行う可能性もありますが、現在のところ、当初予想を変更していません。

下半期にはお客様の予算執行の動きも回復し、1年を押し並べると増収基調を確保できるものと見込んでおります。また、利益面では、前述の通り、積極的な販売促進活動に費用を振り向けることから減益を予想しております。

■ 通期の業績予想

(単位:百万円)

売上高	7,400	+2.9%
営業利益	775	-13.0%
経常利益	823	-3.8%
当期純利益	480	+4.8%

トップインタビュー

今後の取り組みについて

Q3. 当期の重点施策を教えてください。

2012年12月期は、重点施策として次の5つを掲げております。

- 1 ▶ 自社ブランド商品を含めた新商品の充実
- 2 ▶ 商品検索システムの機能・運用強化
- 3 ▶ 海外販売網の拡充加速
- 4 ▶ 細胞関連分野の売上アップ加速
- 5 ▶ 在庫品販売比率のアップ

この5つの施策は、当期だけで十分に達成できるようなものではございません。中長期的な成長の持続には当面欠かすことのできない施策であり、外部環境の変化等に伴って内容や視点が変わっても今後も続けていく必要があるものと考えております。

特に、『自社ブランド』に対しては、今後育成・拡大を図ってきたいという強い思いがあります。国内だけでなく、海外市場に向けても『コスモ・バイオ』というブランドを広めていくためには、商社でなければ実現できない豊富な品揃えと、コスモ・バイオならではの新しい商品の開発・提供という、両面からアピールしていきたいと考えております。

4つめの施策に掲げている『細胞関連分野』は、当社グループが「中期的に注力する分野」と位置づけている3つの分野（細胞関連分野、RNA分野、創薬支援分野）の一つです。当期において特に『細胞関連分野』の取り組みを重点施策として掲げている理由は2つあります。第一に、将来の再生医療実現への期待感を高めている「iPS細胞」が大きな注目を集め、基礎研究を行う研究者や予算が急増してきていること、第二に、細胞関連の商品開発

を行っている当社連結子会社（株）プライマリーセルとのシナジーを更に発展させていきたいというグループ経営戦略の一環、この2つです。お陰様で、グループ全社をあげた取り組みによって、相当数の細胞関連商品を品揃えすることができていると思っております。このうち、（株）プライマリーセルにおいては、主要な事業の一つとして研究開発・商品開発を行っている「内臓脂肪細胞の分化誘導法」について、本年5月に特許（日本国内）が成立しました。この技術は、従来の方法とは異なり、生体内での現象により近い条件下での分化誘導を可能とするものであり、肥満や2型糖尿病に関連した研究活動や薬剤開発に新たな道を開くものです。

Q4. 中長期的な成長戦略についてはいかがですか？

まず、事業環境ですが、ライフサイエンスの基礎研究分野は、期待値も含めて、ますます推進していかなければならない分野であると思っております。国内外の政治・経済情勢には多くの不透明かつ不安定な材料があるものの、中長期的にはライフサイエンス市場は拡大トレンドを迎えることが予想されます。

そうした中長期的な目線に立った成長戦略を推し進めるべく、当社グループは、『活力ある成長企業を目指す』というビジョンのもと、“第一に選ばれる研究開発支援の会社”となるこ



カタログ



コスモバイオニュース



とを目標の一つに掲げて
おります。

“第一に選ばれる”という
存在となり、そうあり続け
るためには、信頼を基礎と
したブランド力を備えてい
くこと、商品力、情報力、物
流を含めたサービス力な
どを常に高めていくこと、
このような基本的な取り
組みが不可欠であると認
識しております。

その中でも、最も重要な力握るのは、やはり『商品力』で
あると考えております。当社グループでは現在、世界約600社
に及ぶ仕入れ網を構築し、280万品を超える圧倒的な品揃え
を実現しております。

しかし、ライフサイエンスの技術の急速な進歩や研究トレンド
の変化などに伴って、商品は年々陳腐化していきます。数だけ
ではなく質も問われます。私たちは、常に技術や研究のトレンド
を察知しながら、研究者が求める商品を品揃えしていかなけれ
ばなりません。

そのためには、「商社機能」と「メーカー機能」の両輪の更なる強
化が不可欠であると考えております。商社機能としては、日本を含
む世界中から、現在および将来の研究支援につながるメーカーや
商品、技術を見つけ出してくる“探索力”を更に研ぎ澄ましてまい
ります。また、メーカー機能としては、(株)プライマリーセルにおけ
る研究開発体制の強化に加え、大学等とのコラボレーションによ
る研究開発を積極化させ、自社開発商品の拡充を加速させてまい
ります。

特に、グローバルな事業展開を推し進めていく上で、『自社ブラン
ド』商品の拡充は欠かせません。自社開発商品とOEM商品の双
方により、『コスモ・バイオ』ブランドによる品揃えの強化を積極的
に推し進めてまいります。そして、商社機能とメーカー機能を融合
させた強みを有する数少ない企業グループとして進化を遂げて
いきたいと考えております。

株主の皆様へ

Q5. 最後に、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

当社グループの事業領域であるライフサイエンスの基礎研究
の分野は成長市場と目されておりますが、事業環境は、長期的に
は今後厳しさを増すものと捉えております。当社グループは、同
業他社と競り合い、勝ち抜いていくための強固な事業構造を既
に一部確立しておりますが、幅広く更にもう一段上のレベルで発
揮することに注力し、将来の成長を確かなものにしていく取り組
みを行ってまいります。

こうした企業価値の向上にグループ全社員一丸となって取り組
み、今後も利益ある成長を続けてまいりたいと考えております。

その上で、株主の皆様への利益還元につきましては、「安定配当
の継続」を重要な経営課題であると認識し、当期におきましても、
前期より開始した“中間配当”を実施させていただきました。“期末
配当”につきましても、当初予想通りの実施を計画しております。

また、株主の皆様に対する情報発信も重要な経営課題である
との認識に立ち、今後も積極的なIR活動を行ってまいります。

株主の皆様には引き続き、ご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い
申し上げます。

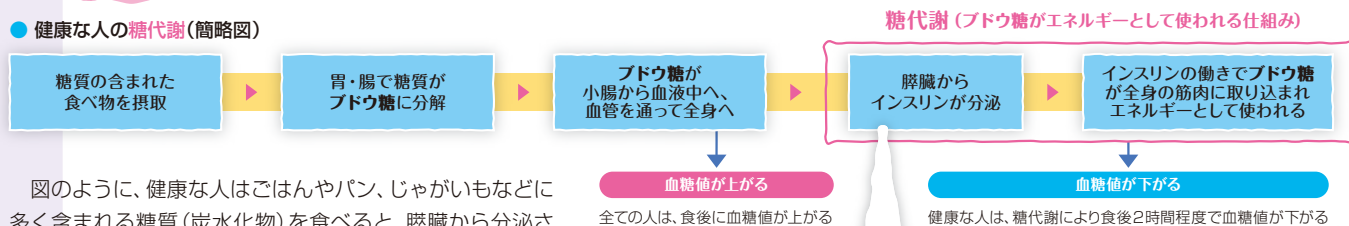
特集：「糖尿病」の克服に向けた基礎研究

近年日本でも患者数が急増している「糖尿病」は、予備軍を含めて6人に1人が患っている病気です。今はまだ、一度発症すると一生つきあっていくことになる病気ですが、ここにもライフサイエンスのメスが入り、病気を完全に治す取り組みが行われています。



糖尿病ってどんな病気？ どんな仕組みで起こるの？

● 健康な人の糖代謝（簡略図）



図のように、健康な人はごはんやパン、じゃがいもなどに多く含まれる糖質（炭水化物）を食べると、膵臓から分泌されるインスリンの働きによって糖代謝が正しく働きます。

ところが、糖尿病の人は、インスリンの働きが悪くなる、またはインスリンが分泌されなくなる等によって糖代謝が悪くなり、血糖値（血液中のブドウ糖の濃度）が異常に高くなります。血管内にブドウ糖が多い状態が長く続くと血管はダメージを受け、大きい血管では動脈硬化、細かい血管では視力低下や腎臓機能低下、末梢神経障害などの合併症を引き起こします。

しかしこのような合併症がおこらないように、血糖値を適切にコントロールするさまざまなくすりが開発されていて、糖尿病の方の健康的な生活に寄与しています。



糖尿病の2つのタイプ



糖尿病のくすりはたくさんあるのに、基礎研究はまだ必要なの？

もちろん、基礎研究はまだ必要です。

くすりでコントロールできると言っても、病気を治しているわけではありません。2型糖尿病は遺伝的要因や環境要因（運動不足、食べ過ぎなど）によって発症しますが、“なぜ糖尿病になるのか”ということがまだ正確には解明できていないのです。

発症のメカニズム解明や病気を引き起こす遺伝子の特定などに向けて基礎研究が日々行われ、新たな発見が次々に報告されています。

基礎研究で何をしているの？

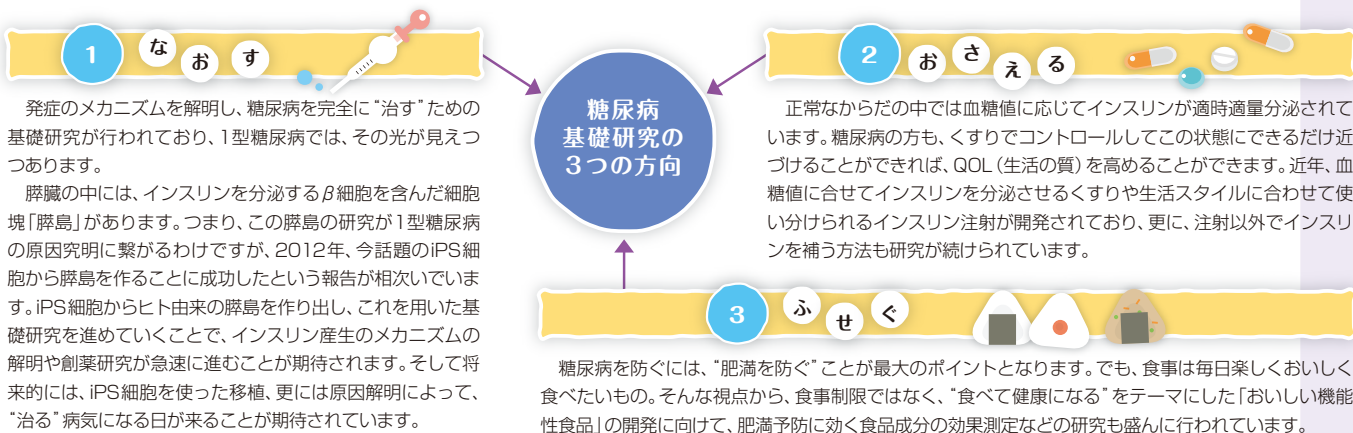
- 病気の原因を突き止めるための、発症のメカニズムの解明
- 病気を引き起こす遺伝子の特定
- 新たなくすりの開発のためのバイオマーカー探索（バイオマーカー：病気によって体内に増える物質）
- 血糖値コントロールに有効な、副作用の少ないくすりの開発
- 病気を予防する機能性食品の開発 など



糖尿病はこれからも“一生つきあっていかなければならない”病気のままなの？

糖尿病を“治る”病気に！

糖尿病になると、毎日の食事をはじめとした生活習慣の改善、毎食前のくすりの服用、毎日数回のインスリン注射など、日々の生活に制約がつかまってしまう。糖尿病の基礎研究は、こうした煩わしい日々の制約から少しでも患者さんを解放するために、次の3つの方向で進められています。



糖尿病の研究に役立つすごい試薬ができたって聞いたわ！

糖代謝測定キット

世界初の
画期的な手法を
使ったキットを
独自に開発！



そうです！当社グループでは、これまでになかった画期的な手法で糖の取り込み量を調べる測定キットを開発し、昨年から販売を開始、大変好評いただいています。

「2型糖尿病」研究では、①インスリンが正しく作用しているか、②細胞内にブドウ糖がしっかり取り込まれているか、この2つを調べるのが重要ですが、この測定キットには、従来の測定手法が持つ大きな問題を解決した、世界初の画期的な手法が採用されています。

従来の
測定方法

- 細胞に取り込まれた糖を測定するためには、糖にめじるしをつけておかないと測れない

めじるしとして…

放射性物質（主流な方法）……………キケン！

蛍光物質……………大きすぎて不安定

当社提供の
測定キット
の場合

- 糖にめじるしをつけなくても測れる新しい測定方法
- 放射性物質を使わない！

安全、正確

トピックス

1
Topics

「個人投資家向け会社説明会 (大阪・東京)」を開催

2012年6月に、大阪にて日本証券新聞社主催の会社説明会に参加しました。また、東京ではSMBC日興証券 虎ノ門支店において会社説明を行いました。

▶ 当社ウェブにて、説明会の資料およびQ&Aがご覧いただけます。

ホーム > IR情報 > 個人投資家向け会社説明会

<http://www.cosmobio.co.jp/ir/individual/>



2
Topics

「学術集会附設展示会」への出展

研究者への情報発信を通じた当社プレゼンスの向上を目的に、2012年上半期は日本農芸化学会や国際幹細胞学会をはじめ、6つの学会展示会に出展しました。また、日本(横浜)で開催された国際幹細胞学会では、自社の展示と併せ、幹細胞研究用試薬を開発・販売する仕入先の展示やセミナーをサポートしました。



株主の皆様へ

株主様アンケートのお願い

当社では、株主の皆様からいただいたご意見・ご要望を、今後の経営およびIR活動に活かしたいと考えております。つきましては、株主様アンケートを実施させていただきますので、お手数ではございますが、同封のハガキに所定の内容をご記入いただき、ご投函くださいますようお願い申し上げます。

ご回答いただきました集計結果の一部につきましては、当社のHPに掲載するとともに、次回の株主通信にてご報告させていただきます予定です。

アンケート
メー

2012年12月31日

なお、お寄せいただきました情報は、上記目的以外には利用いたしません。

子会社の活動紹介

「内臓脂肪細胞の分化誘導法」に関する日本特許の成立

登録番号：特許第4997228号／発明の名称：「内臓脂肪細胞の分化誘導法」

特許技術を用いた商品
(培地)

当社子会社の(株)プライマリーセルが出願した特許が、2012年5月に日本国内で成立しました。

生活習慣病の主な原因は肥満、特に「内臓脂肪」の蓄積です。本特許技術は、「内臓脂肪」細胞が体内で作られる過程の研究や生活習慣病の治療薬を開発する研究のために非常に有効な細胞培養技術です。当社グループではこの技術を活かした商品・受託サービスを拡販し、技術の浸透を図るとともに、生活習慣病の治療・予防研究に貢献してまいります。



表紙について

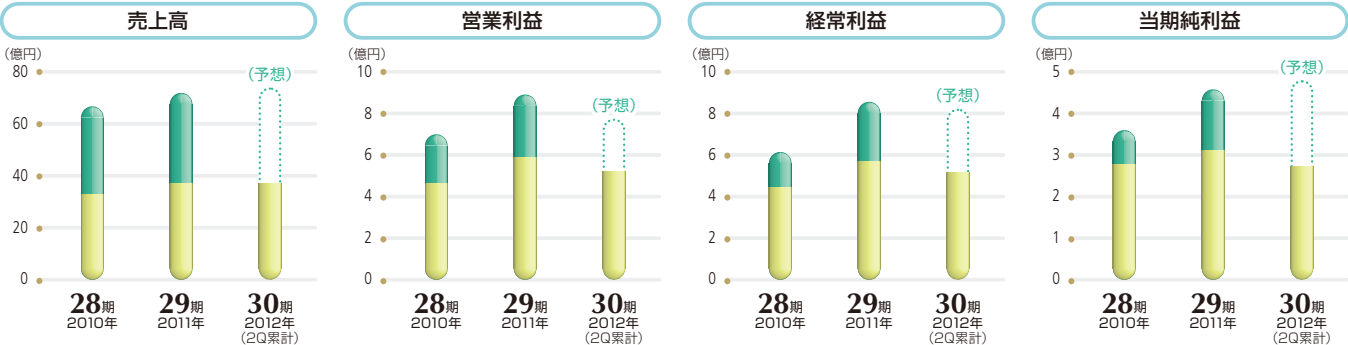
地球が育んでいる無数の生命体。私たちコスモ・バイオは、その一つひとつに秘められた無限の可能性を最大化させることで、人と科学のステキな未来へつなげていきます。

今回の表紙は、命の“つながり”を大切に考え、未来へと“つなげ”ていく私たちの姿勢を表現しています。



営業の概況（連結）

● 通期 ● 2Q累計



業績
ハイライト

■ 市場全体としては弱い動き

バイオ研究関連の試薬・機器市場は、1-3月の年度末需要がやや活発だったものの、4-6月は大学・公的研究機関における予算執行に慎重さがみられるなど、市場全体としては弱い動きで推移しました。

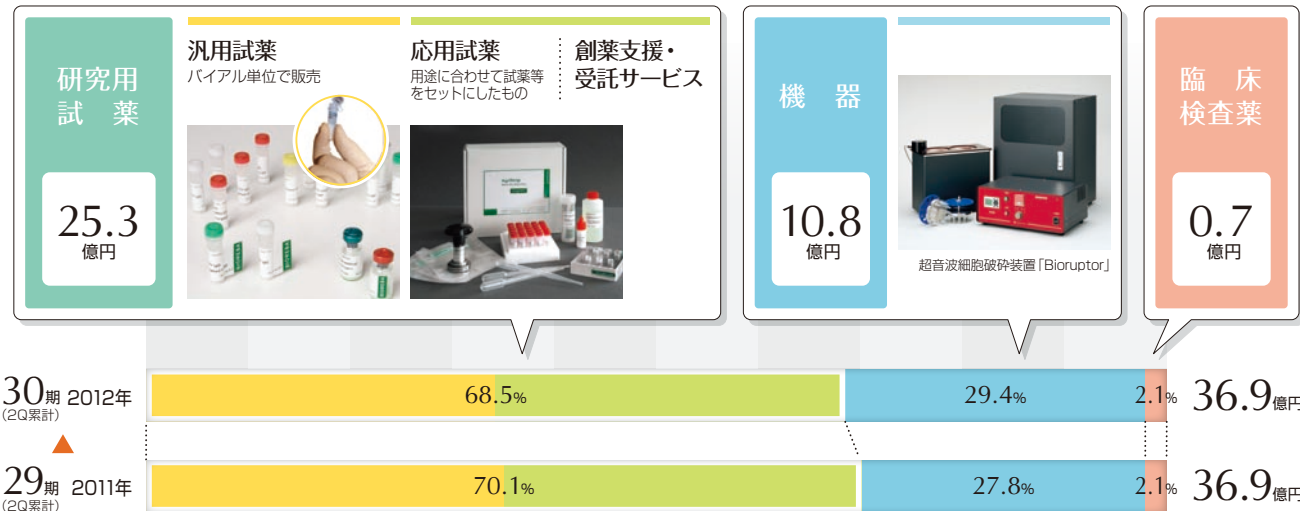
■ 円高傾向による仕入原価の低減

当第2四半期累計期間の平均為替レートは、当初計画の83円/ドルに対して79円/ドルと円高傾向が続いたことから、粗利益が当初予想を上回り利益に貢献しました。

■ 販管費増額で営業利益は減少

利益面への円高寄与はあったものの、当期は商品情報発信等の販売促進活動を積極化するため販管費予算を増額しており、これを計画通り実行したことから、営業利益は減益となっております。

商品分類別連結売上高



連結財務諸表（要約）および主な連結経営指標

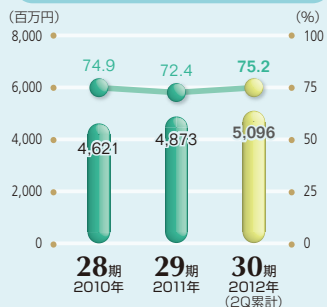
貸借対照表

（単位：百万円）

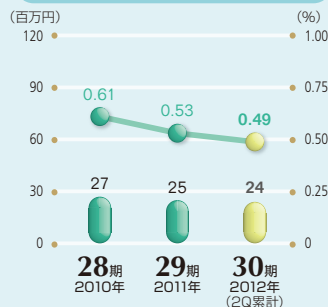
	前期末 2011年12月31日現在	当第2四半期末 2012年6月30日現在		前期末 2011年12月31日現在	当第2四半期末 2012年6月30日現在
資産の部			負債の部		
流動資産	5,264	5,028	流動負債	1,092	895
現金及び預金	1,279	1,370	支払手形及び買掛金	420	420
受取手形及び売掛金	2,310	2,031	短期借入金	20	20
有価証券	834	804	未払法人税等	284	219
たな卸資産	730	742	その他	368	235
その他	115	85	固定負債	298	308
貸倒引当金	△ 6	△ 5	役員退職慰労引当金	28	34
固定資産	1,470	1,751	その他	270	273
有形固定資産	179	181	負債合計	1,390	1,203
無形固定資産	213	205	純資産の部		
投資その他の資産	1,077	1,364	株主資本	4,899	5,101
投資有価証券	782	1,066	自己株式	△ 67	△ 67
関係会社株式	11	11	その他の包括利益累計額	△ 25	△ 5
その他	288	286	少数株主持分	470	480
貸倒引当金	△ 4	—	純資産合計	5,343	5,576
資産合計	6,734	6,779	負債純資産合計	6,734	6,779

● 通期 ● 2Q累計

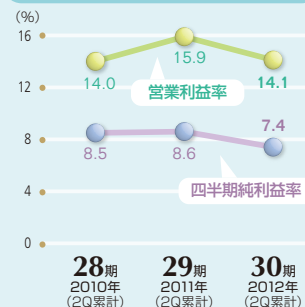
自己資本／自己資本比率



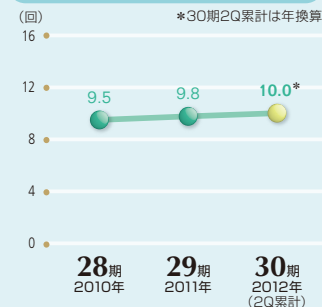
有利子負債残高／有利子負債比率



営業利益率／四半期純利益率



たな卸資産回転率



One Point! 解説 1 健全性

当社は、財務の健全性確保に努めております。自己資本比率は前期末比2.8ポイント向上し75.2%の安定した状態を保っています。また、自己資本に占める有利子負債の割合を示す有利子負債比率は0.49%と極めて低い水準にあり、有利子負債残高はわずか24百万円（リース債務を含む）となっています。

One Point! 解説 2 収益力

利益率は前期の水準を下回っているものの、当第2四半期累計期間において営業利益率は14.1%、四半期純利益率は7.4%と比較的高い水準を維持しております。また、当社は在庫品の販売比率向上に努めており、その成果を示す一つの指標となる「たな卸資産回転率（年間売上高をたな卸資産で割ったもの）」は、10回転前後の高い水準を確保しています。

損益計算書

(単位:百万円)

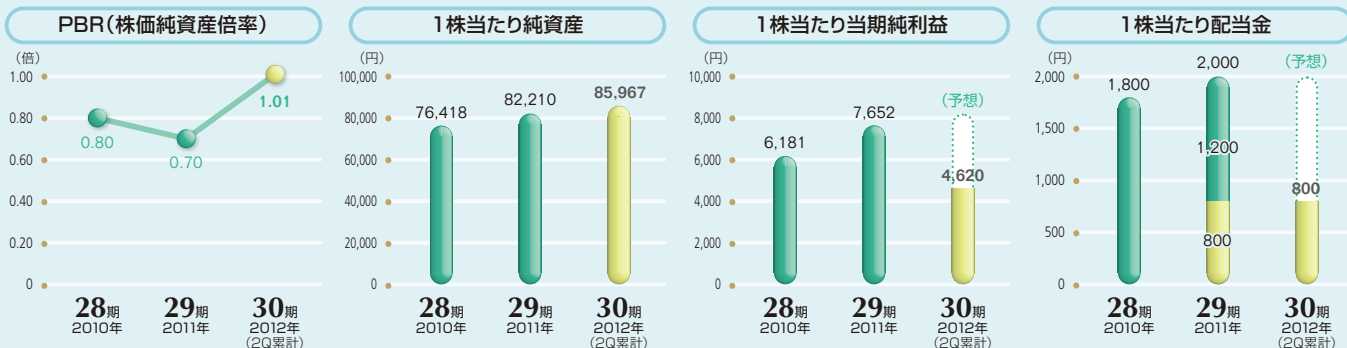
	前第2四半期累計 2011年1月1日～ 2011年6月30日	当第2四半期累計 2012年1月1日～ 2012年6月30日
売上高	3,696	3,693
売上原価	2,043	2,032
売上総利益	1,652	1,660
販売費及び一般管理費	1,064	1,141
営業利益	588	519
営業外収益	20	23
営業外費用	37	28
経常利益	570	514
特別利益	43	3
特別損失	19	5
税金等調整前四半期純利益	594	512
法人税等	255	222
少数株主損益調整前四半期純利益	339	289
少数株主利益	22	16
四半期純利益	316	273

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期累計 2011年1月1日～ 2011年6月30日	当第2四半期累計 2012年1月1日～ 2012年6月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	829	497
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 115	△ 331
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 110	△ 77
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△ 1	2
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	601	90
現金及び現金同等物の期首残高	1,181	1,471
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,783	1,561

(注) 株価は各期の末日終値



One Point!

解説 3

株主還元

当社では、株主の皆様への利益還元を経営の重要事項の一つと認識しております。当社の株式を長期的かつ安定的に保有していただくため、安定配当を行っていくことを念頭に置き、配当性向を重視しつつ、今後の収益状況の見通しなどを総合的に勘案して決定すべきものと考えております。

前期より年2回の配当(第2四半期末と期末)を実施しており、当第2四半期末においては前期と同じく1株当たり800円にて実施させていただきました。なお、期末配当は1,200円(年間配当2,000円)を予想しております。

会社概要

(2012年6月30日現在)

商 号 コスモ・バイオ株式会社
 設 立 1983年8月25日
 所 在 地 〒135-0016 東京都江東区東陽二丁目2番20号 東陽駅前ビル
 資 本 金 918百万円
 事 業 内 容 ライフサイエンスに関する研究用試薬、機器、
 臨床検査薬の輸出入及び国内販売
 従 業 員 数 連結：120名 個別：80名

役 員

(2012年6月30日現在)

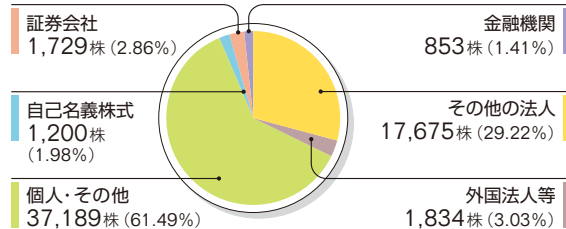
代表取締役社長 笠 松 敏 明
 専 務 取 締 役 田 中 知 知
 常 務 取 締 役 鈴 木 忠 忠
 常 務 取 締 役 櫻 井 治 久
 取 締 役 船 戸 俊 明
 取 締 役 世 良 伸 也
 常 勤 監 査 役 近 藤 直 正
 監 査 役 佐 々 木 治 雄
 監 査 役 堀 米 泰 彦

株式の状況

(2012年6月30日現在)

発行可能株式総数.....183,616株
 発行済株式の総数(自己株式1,200株を含む).....60,480株
 株主数.....3,002名

所有者別株式分布状況



大株主の状況

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
東京中小企業投資育成株式会社	11,520	19.43
コスモプロパティサービス株式会社	5,760	9.72
コスモ・バイオ従業員持株会	3,522	5.94
福井 朗	1,772	2.99
原田 正憲	1,760	2.97
福田 裕志	1,710	2.88
鈴木 忠	1,480	2.50
田中 知	1,480	2.50
高木 勇次	1,480	2.50
コスモ・バイオ株式会社	1,200	—

(注1) コスモプロパティサービス株式会社はコスモ石油株式会社の連結子会社です。
 (注2) 議決権比率は、自己株式1,200株を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで	株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
定時株主総会	毎年3月開催		東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
基準日	12月31日	公告方法	電子公告 http://www.cosmobio.co.jp/
剰余金の 配当の基準日	6月30日、12月31日		(ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行います。)
単元株式数	1株	上場証券取引所	大阪証券取引所 JASDAQ スタンダード
		証券コード	3386

株式に関するお問い合わせ先 ▶ 住所変更等、株式に関する手続き・お問い合わせは、お取引の証券会社へお願いいたします。



人と科学のステキな未来へ

コスモ・バイオ株式会社

〒135-0016
 東京都江東区東陽二丁目2番20号 東陽駅前ビル
 Tel. 03-5632-9600 Fax. 03-5632-9613